

学生番号 _____

履修の記録

| | | | |
|----------------------------|--|------------|-------------|
| ふりがな 氏名 | 学生番号 | | |
| | | | |
| 学部・ 学科専修 /研究科・ 専攻 | 学部 | 学科 | 専修 |
| | 研究科 | 専攻 | |
| | 在学期間 _____ 年4月入学 _____ 年3月卒業/修了(予定) | | |
| 科目等 履修生 | _____ 年度入学 在学期間 _____ 年4月から _____ 年3月まで(予定) | | |
| 取得希望 免許教科 及び種類 | 教科名 | 学校種(中学/高校) | 免許種類(1種/専修) |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | 例) 英語 | 中学 | 1種 |
| | 英語 | 高校 | 1種 |
| 社会 | 中学 | 1種 | |

立教大学

教職課程

*この用紙は、フラットファイルの表紙に、剥がれないように貼付すること。

「履修の記録」について

<主旨と目的>

教職課程を履修している学生ひとりひとりの履修及び学習状況を把握し、教員になるために必要な知識や技能を習得する一助とする。

<作成期間>

教職課程履修時から教員免許取得時まで継続して作成する。

<内容>

以下から構成される。

- 1) 「教育職員免許法施行規則に定められた科目(教職課程科目)」の履修状況・・・P6
 - 2) 「教育職員免許法施行規則66条6に関する科目」の履修状況P8
 - 3) 「大学が独自に設定する科目」の履修状況・・・P8
 - 4) 「介護等体験」に関する事・・・P8
 - 5) 「教育職員免許法施行規則に定められた科目(教科科目)」の履修状況・・・P9
 - 6) 「教育実習」に関する事・・・P11
 - 7) 教育実習についての報告と指導の学部学科担当教員のサイン・P11
 - 8) 「教職実践演習」担当教員によるコメント・・・P11
 - 9) 「自己評価シート」・・・P12
 - 10) 「教育実習事後レポート」のコピーの添付・・・P13
 - 11) 「教職実践演習」におけるレポートの綴じ込み・・・P14
- * 「フラットファイル表紙」用紙(各自で用意するフラットファイルの表紙に貼る)

<「履修の記録」作成手順>

以下の手順を各自で確認し、遺漏がないように作成すること。

- ① 『学校・社会教育講座 履修要項』及び正誤表並びに訂正再配布版、所属学部の『履修要項』を見ながら、必要事項および自分の履修状況を遺漏無いように記入する。

なお、「教科に関する科目」については、**【取得予定免許教科】ごとに用紙をコピーし、それぞれの教科についての履修状況を記入する。**

- ②履修状況は、現時点のものを記入する。また、今後については、毎学期の成績が出た時点で忘れずに記入すること。

- ③各年度の終わりに、「自己評価シート」の記入をおこなう。

- ④「介護等体験」、「教育実習」については、終了後1週間以内に記入すること。

- ⑤「教職実践演習(中・高)」に関わるレポートは、教職課程履修最終学年後期に受講する「教職実践演習(中・高)」(2単位、必修)の授業時の指示に従って作成する。

⑥記入欄が不足する場合は、用紙を予めコピーしておき記入すること。

⑦上記を各自で用意する「フラットファイル A4サイズ タテ型(例:コクヨ;フVJ10/キングジム;4437SP)」に綴じ込んでおくこと。なお、ファイルの表紙には、「表紙用紙」を貼ること。

<提出時期>

指示に従い、「履修の記録」を提出する。

・「教職実践演習(中・高)」授業時。期日等は各クラス担当者の指示に従うこと。

*「履修の記録」は、「教職実践演習(中・高)」のテキストとして使用するので必要事項は記入しておくこと。

<その他>

・「教職実践演習(中・高)」の履修までに、それぞれの記入用紙に記入漏れが無いが、十分に確認しておくこと。

・「教職実践演習(中・高)」の科目登録前は、「教職実践演習(中・高)」履修年度の池袋及び新座で開講する「中・高教育実習」および「高校教育実習」に科目登録している学生は、前記科目の Blackboard にて、「教職実践演習(中・高)」に関するアナウンスをおこなうので、確認すること。

なお、「教職実践演習(中・高)」の履修登録後は、「教職実践演習(中・高)」の Blackboard を使用する。同時に同一内容は、学校・社会教育講座掲示板にも掲示する。

「教職実践演習 (中・高)」について

<科目の主旨と目的>

2006年7月の中央教育審議会答申(「今後の教員養成・免許制度の在り方について」)において提言された内容を制度化するために、2008年3月に「教育職員免許法施行規則」の改訂がなされた。

この改訂に従い2010年度入学生より、教職課程履修においては「教職実践演習(中・高)」(教職課程履修最終学年の秋学期配当科目、2単位)が必修となった。

この科目は、「教職に関する科目」に区分され、教育実習を終了した学生を対象にして、「教職課程の履修を通じて、教員としての最小限必要な知識技能を確実に身につけさせるとともに、その知識技能を明示的に確認することを目的とする」ものである。

<立教大学における教職実践演習の概要>

- 1) 池袋キャンパス7クラス、新座キャンパス2クラスで展開する。原則、所属キャンパスで開講するクラスを履修すること。教職課程履修最終学年の秋学期に科目登録(その他登録)をおこなう。
- 2) 授業形態は、「クラスごとの演習形式の授業」と、科目登録キャンパス別に教育委員会や中学校・高等学校の現職教員の講義を受ける「合同講義形式の授業」の2本立てでおこなう。
- 3) この授業で扱う内容と方法は、教職課程履修学生各自の教職課程履修における学び、ことに教育実習の経験と反省を踏まえて、「教員としての使命や責任」、「教員としての社会性や対人関係を作り、展開する力量」、「多面的な生徒理解」及び「学級運営の力量や教科指導の力量」といった内容を模擬授

業やディスカッション、ロールプレイなど実践的な学びのスタイルに基づき学習する。

- 4) 「教職実践演習(中・高)」の科目登録に際しては、「教育実習」の単位修得が済んでいる、もしくは「教育実習」を履修中であること、および「履修の記録」の必要事項の記入が済んでいることが必須となる。

※ 2019年度学部入学生に関わるカリキュラム等の変更について

2019年度4月より、新教育職員免許法が施行された。これによる変更点、適用となるカリキュラム等の留意点は以下のとおりである。

- 1-①. 「2019年度以降入学者適用カリキュラム」は、主として、2019年度以降学部1年次入学者を対象としたカリキュラムである。
- 1-②. 2022年度以降入学者については、上記「2019年度以降入学者適用カリキュラム」に「ICT教育に関する理論と方法」(1単位)の履修が新たに必修化された。

2. 2018年度以前入学者適用カリキュラムからの主な変更点は以下のとおり。

①新規開設科目

- ・ 特別支援教育の理論と方法
- ・ 特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法
- ・ ICT教育の理論と方法(2022年度以降入学者適用)

②教育実習先修科目

- ・ 教科教育法Ⅰ(注)
- ・ 教科教育法演習Ⅰ(注)

(注) 異文化コミュニケーション学科学生は、自学科開設の「教科の指導法」科目を修得すること。

3. 入学(編入学)年度および学籍(学部・大学院・科目等履修生)ごとの適用カリキュラムについては、「学校・社会教育講座 履修要項」を参照すること。また不明な点は講座事務室教務担当者に確認すること。

「履修の記録」の記入方法

1. 「教職に関する科目」、「教科に関する科目」、「教科または教職に関する科目」及び「教育職員免許法施行規則 66 条の 6 に関わる科目」について

既に履修した科目は、「単位数」「単位修得学年」「担当教員名」「成績評価」および「学んだこと」を記入する。なお、成績評価がまだ出ていない場合は、成績が出た時点で「評価」及び「学んだこと」を記入する。なお、単位取得に至らなかった科目は、記入する必要はない。

記入例

| 免許法上の区分 | 本学での科目名 | 単位 | 修得年度 | 教員名 | 評価 | 学んだこと |
|----------------|---------|----|--------|------|----|--|
| 教育の基礎的理解に関する科目 | 教職概論 | 2 | 20**年度 | 奈須恵子 | A | 学校や教師、生徒をめぐる法律的知識を得ることができた。中でも印象に残っている内容は●●であり、教職についての理解が深まった。 |

*「教育職員免許法施行規則に定められた科目(教職課程科目)」: 自分の履修単位「修得年度」を記入し、さらに「学んだこと」欄に2～3行程度で学んだ内容を要約して記入すること。

(記入例)

- ・生涯発達心理学を学んだ。とりわけ青年期の心理的特徴と青年期の心理的危機について具体例を通して理解を深めた。さらに●●●が分かった。

*「教育職員免許法施行規則に定められた科目(教科科目)」の「学んだこと」欄は、学んだ内容を1～2行に要約して記入する。

(記入例)

- ・主に連立1次方程式およびベクトル空間について学んだ。
- ・英国の演劇について学んだ。なかでも、シェイクスピアの戯曲への理解が深まった。
- ・日本史の通史を学んだ。中世から近世への理解が深まった。

★複数の免許を取得希望する場合は、「教科教育法」及び「教育職員免許法施行規則に定められた科目(教科科目)」については、取得希望免許教科ごとに記入する。「履修要項」該当のページを確認すること。

2. 「介護等体験(中学校免許取得希望者は必須)に関すること」について

オリエンテーション終了時ごとに、また体験後1週間以内に必要事項を記入する。「学んだこと」については、単なる感想ではなく、気づいたことを記入する。

3. 「教育実習に関すること」について

正式に実習校の内諾が承認された段階(概ね実習前年度 3 月～7 月頃が多い)で「実習予定校」を記入する。実習期間や教科科目などは、実習終了後に正確に記載する。また実習後 1 週間以内に「教育実習を通して学んだこと」を記入する。

4. 「教育実習」に関する「教育実習についての報告と指導の学部学科担当教員のサイン」欄(PII)

「教職実践演習(中・高)」履修年度に、各自の担当となる所属学科専修の指導教員を発表する。教育実習終了後、事後レポートを作成し、「実習日誌」提出前に各自の指導担当教員の指示に従って訪問し、面談指導を受ける。その際、「教育実習の記録」、「教育実習事後レポート」(コピー)、そして「履修の記録」ファイルを持参する。

面談指導では、指導担当教員に教育実習について口頭で気づきや感想を報告し、教員からの質疑に答える。終了時に、「履修の記録」PII の所定欄に担当教員のサイン又は押印を忘れずに頂く。さらに、指導担当教員から頂いたコメントをまとめて、各自が記入欄に記入する。

*担当教員への報告、担当教員のサイン又は押印、コメント欄の記入が認められない場合は、「教育実習」の単位認定に至らない場合があるので、十分に留意すること。

5. 「教職実践演習担当者のコメント」欄について

この欄は、実習年度秋学期の「教職実践演習」担当教員が記入するので、記入しないこと。

6. 「教職に関連する諸活動」欄について

この欄は、教職課程履修中に、中・高での継続的な部活指導や学習指導、メンタルフレンド活動など、正課外で教職に関連する活動(ボランティア活動を含む)をしている場合、または教職に関する講演会等(含、教職課程主催のプログラム)に参加した場合に記入する。

7. 自己評価シート

各学年が終了する年度末に、その年度での教職に関する学習過程について自己評価をおこなう。それぞれの項目について、5 段階で自己評定し、その数値を記入すること。自己評価は、あまり深く考えすぎず、日常の生活を振り返りながら、項目ごとに評定すること。

なお、本年度欄の右側には、翌年度、翌々年度を西暦で記入する。

8. 「教育実習事後レポート」および「教職実践演習(中・高)」での課題レポート

指定された箇所に、綴じ込む。なお、「教育実習事後レポート」は、「教育実習の記録」と一緒に提出(提出指定期日を確認すること)する前にコピーを必ずとっておき、ファイルする。

「教職実践演習(中・高)」での課題レポートは、授業時の指示に従って作成し、ファイルする。

■「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の履修状況 太枠内を記入すること

| | 本学での科目名 | 単 位 | 修得 年度 | 教員名 | 評 価 | 学んだこと |
|--|------------------|--------|----------|-----|--------|-------|
| | 日本国憲法 | 2 | | | | |
| | 体 育 | 2 | | | | |
| | 外国語コミュ ニケーション | 2 | | | | |
| | 情報機器の 操作 | 2 | | | | |

*「体育」は2単位が必要単位数となる。

■「大学が独自に設定する科目」の履修状況 太枠内を記入すること (履修単位修得者のみ記入する)

| 本学での科目名 | 単 位 | 修得 年度 | 教員名 | 評 価 | 学んだこと |
|-----------|--------|----------|-----|--------|-------|
| 教職特別演習() | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

■介護等体験

中学校免許取得希望者必須

| | | |
|---|----|--------|
| 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律 | 年次 | 気づいたこと |
| 介護等体験ガイダンス<登録> (年 月) | | |
| 介護等体験ガイダンス<事前指導>(年 月) | | |
| 社会福祉施設 施設名 _____ (年 月 日 ~ 月 日) | | |
| 特別支援学校 学校名 _____ (年 月 日 ~ 月 日) | | |
| *ガイダンス<大学での直前指導> (年 月) | | |

■教育実習に関すること 太枠内を記入する

1) 教育実習校 (*実習内諾が取れた後に記入する。また実習終了後に期間など正確に記載すること)

| 学校名 | 教育実習期間 | 実習教科科目 | 学級指導 学年・クラス |
|-----|---|---------------------------|-------------|
| | _____年 _____月____日～ _____月____日(____日間) | 教科科目名 授業実習 _____時間 | _____年____組 |

2) 教育実習を通して学んだこと／新たに自分の課題と感じたこと・・・実習後1週間以内に記入する

■教育実習についての報告と指導の学科専修指導教員のサイン・・・自分の担当教員：_____先生

| 学科専修指導教員のサイン | 指導を受けた日 年 月 日 |
|-------------------------------|------------------|
| (担当教員から頂いたコメントをまとめて学生自身が記入する) | |

*各自の担当教員については、「教職実践演習(中・高)」履修年度に発表する。

*担当教員面談時に、「教育実習事後レポート」コピーを「履修の記録」ファイルに綴じ、持参する。

■「教職実践演習」担当教員によるコメント 教職実践演習授業期間中に科目担当教員が記入する

| 担当教員のサイン | 記入日 年 月 日 |
|----------|--------------|
| | |

氏名：_____ 学科・専修／専攻_____ 学年 年 学生番号_____

■教職に関連する諸活動(部活/学習指導、講演会参加など) 活動に参加した場合、太枠内に記入する

| 名 称 | 主催団体 | 日付(期間) | 場所 | 活動内容 | 学んだこと |
|-----|------|--------|----|------|-------|
| | | | | | |
| | | | | | |

■自己評価シート 下記評定基準に基づき、各自で自己評価する

| 教員に必要な資質能力の指標 | | 自己評価 下記基準を参照の上、5段階で自己評定する | | |
|------------------|--|------------------------------|---------|---------|
| 項目 | 指標 | 本年度終了時 | __年度終了時 | __年度終了時 |
| | | | | |
| 教育に対する情熱や使命 | 教育に対する情熱や使命を高める努力をしている | | | |
| 教育の重要性の認識 | 教育の重要性と社会的意義や責任を認識している | | | |
| 教科教育に関する専門的知識 | 取得予定の免許教科に関する専門的知識を十分に有している | | | |
| 授業実践に関する力量 | 模擬授業やゼミでのプレゼンテーション等を通して、授業実践に関する力量形成に努めている | | | |
| 生徒と共に歩む姿勢 | 生徒をひとりの人間として尊重し、共に成長する存在となることを目指している | | | |
| 生徒との関わりの経験 | 積極的に生徒と関わったり、触れあう機会を持つようとしている | | | |
| 幅広い教養 | 一般常識を踏まえ、社会人として必要な教養を身につけている | | | |
| 社会性と協調性を兼ね備えた人間性 | 他者と積極的に交流し、共同して作業を行うことができる | | | |

*評定基準； 5：良くてきた 4：ある程度できた 3：どちらとも言えない、
2：あまりできなかった 1：できなかった

■「教育実習事後レポート」の添付

次のページに、「教育実習の記録」と一緒に提出する「教育実習事後レポート」のコピーをファイルしておくこと。

■「教育実践演習(中・高)」におけるレポートの綴じ込み

「教職実践演習(中・高)」の授業時に課せられるレポートが返却されたら、次ページ以降にファイルすること。

「履修の記録」記入例

学生番号 ●●AA000X

【記入例】

「履修の記録」の記入方法(P. 4)も参考にしながら各自で「履修の記録」を作成すること。

履修の記録

| | | | |
|----------------------|---------------------------------|-----|-------------|
| ふりがな 氏名 | りっきょう かおる | | 学生番号 |
| | 立教 薫 | | ●●AA000X |
| 学部・学科 研究科専攻 | 文 学部 | | キリスト教 学科 専修 |
| | 研究科 | | 専攻 |
| | 在学期間 20●●年4月入学 20■■年3月卒業/修了(予定) | | |
| 科目等履修 生 | _____年度入学 | | |
| | 在学期間 _____年4月から _____年3月まで(予定) | | |
| 取得希望 免許教科 及び種類 | 学校種(中学/高校) | 教科名 | 免許種類(1種/専修) |
| | 中学 | 宗教 | 1種 |
| | 高校 | 宗教 | 1種 |
| | 中学 | 社会 | 1種 |
| | 高校 | 公民 | 1種 |
| | 高校 | 地歴 | 1種 |

中学、高校の学校種別に取得予定免許教科を記入。学部卒は、「1種」免許。

立 教 大 学
教職課程

A4 判フラットファイルは各自で用意する。

* この用紙は、フラットファイルの表紙に、剥がれないように貼付すること。

「履修の記録」記入例

■ 「教免法施行規則による科目(教職科目)」の履修状況

教科ごとに太枠内を記入すること

★ 免許教科名【中・高宗教科】 ←メインとなる教科を記入。次ページに取得予定教科をすべて記入

| 免許法上の区分 | 本学での科目名 | 単位 | 修得年度 | 教員名 | 評価 | 学んだこと |
|---------------------------------------|---|----|------|-------|----|---|
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | 教科に関する専門事項 取得予定「免許教科名」を記入。「教科教育法」欄も忘れずに。 | | | | | 各学科開講科目 (中学 20 単位, 高校 20 単位) (履修中:学期末に記載すること) |
| | (宗教)科教育法1() | 2 | | | | 今年度秋学期以降に履修予定の科目は、空欄とし、成績が出た時点で、毎学期末ごとに記入する。 |
| | (宗教)科教育法演習1() | 2 | | | | |
| | (宗教)科教育法2() | 2 | | | | |
| (宗教)科教育法演習2() | 2 | | | | | |
| 教育の基礎的理解に関する科目 | 教育原論() | 2 | 20++ | 森田満夫 | A | 近代教育思想の成り立ちの理解が進んだ。加えて・・・に興味を持った。 |
| | 教職概論() | 2 | 20** | 奈須恵子 | | (履修中:学期末に記載すること) |
| | 教育制度論・教育課程論 | 2 | | | | |
| | 教育心理学 | 2 | 20++ | 原 美香 | A | 生徒の心理的発達や、成績評価の理論の理解が進んだ。 |
| | 特別支援教育の理論と方法 | 2 | | | | |
| 道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目 | 道徳教育の理論と方法 | 2 | 20** | 岩瀧大樹 | A | 道徳発達について理解した。 |
| | 特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法() | 2 | 20++ | 奈須恵子他 | | (履修中:学期末に記載すること) |
| | 教育方法論() | 2 | | | | |
| | ICT 教育の理論と方法() | 1 | | | | ← ※2022 年度以降学部入学者必須 |
| | 生徒・進路指導の理論と方法(B) | 2 | 20** | 坂本保宏 | A | 生徒の発達段階に基づく進路指導の理論について学んだ。 |
| | 学校教育相談の理論と方法(B) | 2 | 20++ | 岩瀧大樹 | | |
| 教育実践に関する科目 | 中・高教育実習事前指導() | 1 | | | | 昨年度までに履修修得した科目は、「評価」と「学んだこと」を記入。今年度, 春学期履修中科目は、修得年度と担当者を記入し、成績が出た時点で、「評価」と「学んだこと」を記入する。 |
| | 中・高教育実習() | 4 | | | | |
| | 高校教育実習() | 2 | | | | |
| | 教職実践演習(中・高)() | 2 | | | | |
| 大学が独自に設定する科目 | 「教職特別演習」や「教科に関する専門事項」の超過単位部分 | | | | | |

「履修の記録」記入例

■複数教科の免許取得を希望する場合は、下記に希望する教科ごとに「教科教育法」を記入すること。

★免許教科名【**社会・高校公民科**】 教科ごとに太枠内を記入すること

| 免許法上の区分 | 本学での科目名 | 単位 | 修得年度 | 教員名 | 評価 | 学んだこと |
|------------------|-------------------|----|------|-----|----|-------|
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | (社会・公民)科教育法Ⅰ(B) | 2 | | | | |
| | (社会・公民)科教育法演習Ⅰ(B) | 2 | | | | |
| | (社会・公民)科教育法Ⅱ(A) | 2 | | | | |
| | (社会・公民)科教育法演習Ⅱ(A) | 2 | | | | |
| | ()科教育法()() | 2 | | | | |

「中学社会」「公民」を主として「高校地歴」の免許も取得する場合(詳細は「履修要項」参照)。

★免許教科名【**社会・高校地歴科**】

| 免許法上の区分 | 本学での科目名 | 単位 | 修得年度 | 教員名 | 評価 | 学んだこと |
|------------------|-------------------|----|------|-----|----|-------|
| 教科及び教科の指導法に関する科目 | (社会・地歴)科教育法Ⅰ(B) | 2 | | | | |
| | (社会・地歴)科教育法演習Ⅰ(B) | 2 | | | | |
| | (社会・地歴)科教育法Ⅱ(A) | 2 | | | | |
| | (社会・地歴)科教育法演習Ⅱ(A) | 2 | | | | |
| | ()科教育法()() | 2 | | | | |

★教科教育法の履修方法の詳細については、「講座 履修要項」を参照すること。

*必要に応じて、各自でこのページのコピーを取り、記入してファイルすること。

「履修の記録」記入例

■「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の履修状況 太枠内を記入すること

| | 本学での科目名 | 単 位 | 修得 年度 | 教員名 | 評 価 | 学んだこと |
|------------------|------------------------|--------|--------------|-------------------|--------|--------------------------------|
| 日本国憲法 | 日本国憲法 | 2 | 20** | 立教憲司 | B | 憲法の精神を理解した。 |
| 体 育 | スポーツスタディ I | 2 | 20** | 築地紀元 | A | ネット系スポーツを通じたスポーツコミュニケーションを学んだ。 |
| 外国語コミュニ ケーション | 英語ディスカッション 英語ライティング | 2 | 20** 20** | Williams Mckim | A B | 英語で表現する難しさと面白さが分かった。 |
| 情報機器の 操作 | 情報処理入門 | 2 | 20++ | 窓 林檎 | | |

*体育は「2単位」の取得が必要。

■「大学が独自に設定する科目」の履修状況 太枠内を記入すること (履修単位取得者のみ記入する)

| 本学での科目名 | 単 位 | 修得 年度 | 教員名 | 評 価 | 学んだこと |
|-----------|--------|----------|-----|--------|-------|
| 教職特別演習() | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

該当する科目は「履修要項」を参照。

■介護等体験 中学校免許取得希望者必須

| 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律 | 年次 | 気づいたこと |
|--|----|--------|
| 介護等体験ガイダンス<登録> (20++年 11月) | 2年 | |
| 介護等体験ガイダンス<事前指導>(年 月) | | |
| 社会福祉施設 施設名 (年 月 日～ 月 日) | | |
| 特別支援学校 学校名 (年 月 日～ 月 日) *ガイダンス<大学での直前指導> (年 月) | | |

「履修の記録」記入例

■ 「教育職員免許法施行規則に定められた科目(教科科目)」の履修状況 太枠内を記入すること

★ 免許教科名【中・高宗教科】 ・ 取得免許教科ごとに作成すること (各自で必要枚数のコピーを取る)

| 免許法上の区分 | 本学での科目名 | 単 位 | 修得 年度 | 教員名 | 評 価 | 学んだこと |
|---|---------|--------|----------|-----|--------|-------------------------------|
| <p>「講座 履修要項」の取得希望免許のページを参照し、そのまま記載する。 なお、「履修要項 正誤表」及び「訂正版」も参照すること。 必要な場合は、講座事務室で受け取ること。</p> | | | | | | 必要に応じて、このページは記入前にコピーを取っておくこと。 |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

「修得年度」「教員名」「評価」「学んだこと」は、各学期終了後、成績が出た時点で記入する。

「履修の記録」記入例

■教育実習に関すること

太枠内を記入する

1) 実習予定校 (* 実習の内諾が取れた後に記入する。また実習終了後に期間など正確に記載すること)

| 学校名 | 実習期間 | 実習教科科目 | 学級指導 学年・クラス |
|------------|--------------------------------|--------------------------|-------------|
| 立教学院中学高等学校 | 20◆◆年 5月25日～ 6月12日(18日間) | 社会科／政治経 済 授業実習20時間 | 中学2年D組 |

2) 教育実習を通して学んだこと／新たに自分の課題と感じたこと・・・実習後1週間以内に記入する

教職課程で学んだことの実践として、準備をしたつもりだったが・・・・・・・・だった。しかし、生徒の理解を促すために、授業においては・・・・を努力した。教材研究については、まだまだ不足していることを痛感した。これからは、・・・・を課題としていきたい。

単なる感想ではなく、実習で気づいたことを中心に書くこと。

■教育実習についての報告と指導の学科専修指導教員のサイン・・・自分の担当教員： 山本 先生

| 学科専修指導教員のサイン | <i>K. Yamamoto</i> | 指導を受けた日 |
|---|--------------------|------------|
| | | 20◆◆年9月30日 |
| <p>(担当教員から頂いたコメントをまとめて学生自身が記入する)</p> <p>教育実習レポートを読んで頂き、教師と生徒の関係性について、 ・・・・というコメントを頂き、新たな気づきとなった。また 「教師は、教壇に立つ以上、勉強し続けることが大切だ」という 山本先生の経験に基づいた言葉が印象に残った。</p> | | |

実習年度に発表される、自分の学科専修指導教員を確認し、実習終了後にアポを取って、コメントを頂きに行く。

先生自筆のサインか押印をいただき、コメントは、事後にまとめて自分で記入する。

*各自の担当教員については、実習年度に掲示にて発表する。

*担当教員面談時に、「教育実習事後レポート」コピーを「履修の記録ファイルに綴じ、持参する。

■「教職実践演習」担当教員によるコメント

教職実践演習授業期間中に科目担当教員が記入する

| 担当教員のサイン | 記入日 |
|--|-------|
| | 年 月 日 |
| <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>実習年度の秋学期に受講する「教職実践演習」の担当教員が記入するので、空欄にしておく。</p> </div> | |

氏名： _____ 学科・専修／専攻 _____ 学年 _____ 年 学生番号 _____

「履修の記録」記入例

■教職に関連する諸活動(部活/学習指導、講演会参加など) 活動に参加した場合、太枠内に記入する

| 名称 | 主催団体 | 日付(期間) | 場所 | 活動内容 | 学んだこと |
|------------------|---------------------|----------------------|-------|--------------------------|---------------------|
| 教職懇談会 | 教職課程 | 20++年 〇月〇日 | 立教大学 | 採用試験内定者、現職 OBOG 教員と交流 | 採用試験の準備のイメージがわいた。 |
| 子ども食堂で ボランティア | NPO 法人 Ike Table | 20++年〇月〇日 ～ 現在継続中 | 西池袋会場 | 生活困窮世帯の中学 生と食事作りなど | 学校外での生徒の生活の一端を垣間見た。 |

■自己評価シート 下記評定基準に基づき、各自で自己評価する

| 教員に必要な資質能力の指標 | | 自己評価 下記基準を参照の上、5段階で自己評定する | | |
|------------------|--|------------------------------|--|-------------|
| 項目 | 指標 | 本年度終了時 | 20++年度終了時 | 20\$\$年度終了時 |
| 教育に対する情熱や使命 | 教育に対する情熱や使命を高める努力をしている | 4 | <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p style="color: red; margin: 0;">今年度から毎年度末に、 左の項目について5段階で自己評価を行い、記入する。</p> </div> | |
| 教育の重要性の認識 | 教育の重要性と社会的意義や責任を認識している | 5 | | |
| 教科教育に関する専門的知識 | 取得予定の免許教科に関する専門的知識を十分に有している | 3 | | |
| 授業実践に関する力量 | 模擬授業やゼミでのプレゼンテーション等を通して、授業実践に関する力量形成に努めている | 3 | | |
| 生徒と共に歩む姿勢 | 生徒をひとりの人間として尊重し、共に成長する存在となることを目指している | 3 | | |
| 生徒との関わりの経験 | 積極的に生徒と関わったり、触れあう機会を持つようとしている | 3 | | |
| 幅広い教養 | 一般常識を踏まえ、社会人として必要な教養を身につけている | 2 | | |
| 社会性と協調性を兼ね備えた人間性 | 他者と積極的に交流し、共同して作業を行うことができる | 4 | | |

*評定基準； 5：良くできた 4：ある程度できた 3：どちらとも言えない、
2：あまりできなかった 1：できなかった